



■日 時 2009年6月6日（土）
■集合時刻 6月6日（土）◆コース毎下記時刻になります。
 (A) 9:30 (B) 10:30 (C) 11:45 (D) 12:00 (E) 12:45
■集合場所 つくばセンターバスターミナル内 バス（A～E）号車
■見学箇所 JAXA 筑波宇宙センター・つつじヶ丘・筑波山神社
 牛久大仏・蔵の町真壁
■参加費用 2,000円（昼食弁当付 ※車中でお配り致しますのでご自由にお召し上がり下さい。）

筑波山温泉に宿泊される方にもお薦め（A・B・Dコース）

A・B・C・Dコース

宇宙航空開発・研究の最先端「筑波宇宙センター」 緑深まる筑波山を訪ねて

TCBT=つくばセンターバスターミナル

6/6 (土)	(A) コース	TCBT	＝	JAXA 筑波宇宙センター	＝	つつじヶ丘・筑波山神社	＝	TCBT
		9:40		10:00～11:30		12:20～14:30		15:30
	(B) コース	TCBT	＝	JAXA 筑波宇宙センター	＝	つつじヶ丘・筑波山神社	＝	TCBT
		10:40		11:00～12:30		13:20～15:30		16:30
	(C) コース	TCBT	＝	つつじヶ丘・筑波山神社	＝	JAXA 筑波宇宙センター	＝	TCBT
		12:00		12:50～14:10		15:00～16:30		16:45
	(D) コース	TCBT	＝	JAXA 筑波宇宙センター	＝	つつじヶ丘・筑波山神社	＝	TCBT
		12:30		13:00～14:30		15:20～16:30		17:30

※ JAXA 筑波宇宙センターの見学定員が決まっているため、申込みの人数によりご希望に添えない場合がございますので予めご了承下さい。

※ A・B・Dコースで筑波山温泉に宿泊されるお客様は、筑波山神社の参拝後、TCBTに戻らず宿泊施設でゆっくりお過ごしいただくことも可能です。

※ 評議員会を傍聴される方は、D・Eコースにお申し込み下さい。

Eコース ギネス公認“世界一の大仏”と 情緒あふれる「蔵の町真壁」を歩こう

TCBT=つくばセンターバスターミナル

6/6 (土)	(E) コース	TCBT	＝	牛久大仏（*自由見学）	＝	蔵の町真壁	＝	TCBT
		13:00		13:45～14:50		16:00～17:00		17:45

※ 参加費用には牛久大仏観光に関する全ての料金は含まれておりません。各自でお支払いください。
 拝観・入場箇所・見学者に合わせた数種の料金（400円～800円）がございます。



JAXA 筑波宇宙センター



筑波宇宙センターは、宇宙開発事業団が、N-I ロケットの打ち上げに向け準備作業を開始した1972年に開設した。2003年、独立行政法人宇宙航空研究開発機構発足と共に宇宙開発事業を受継ぎ今に至っている。法人統合時において、最大規模の組織であり種子島宇宙センター、角田宇宙センターの運用担当機関でもあった。センター内は緑豊かで、およそ53万 m²の広大な敷地に様々な施設がある。センターでは、宇宙飛行士の育成、宇宙開発の研究および試験、これまでに種子島宇宙センターで打上げた人工衛星の追跡や管理も行われています。

筑波山・筑波山神社

美しい姿から富士山とも対比され、「西の富士、東の筑波」と並び称される。古くは万葉集にも詠まれ日本百名山、日本百景の一つでもある。筑波山神社は山岳信仰の対象とされてきた筑波山を境内とし男体山頂に筑波男神（伊弉諾尊）いざなぎのみことを、女体山頂に筑波女神（伊弉冉尊）いざなみのみことを祀る本殿が建てられており拝殿は筑波山南面の中腹にあります。



牛久大仏（正式名称：牛久阿弥陀大佛）



平成元年（1989年）に着工し、同5年（1993年）6月に完成した。真宗大谷派（本山：京都市下京区にある真宗本廟、通称：東本願寺）から分離独立して1988年に結成された浄土真宗東本願寺派（本山：東京都台東区浅草にある東本願寺）の霊園に面して造られている。その姿は同寺の本尊である阿弥陀如来像のスケールモデル、すなわち、忠実な拡大模型の形をとっている。『ギネスブック』も公認の世界一の大きさ（全高120m、像高100m、台座20m）の青銅（ブロンズ）製仏像である。奈良の大仏（東大寺盧舎那仏像。像高14.98m）が掌（てのひら）に乗り、米国ニューヨーク州にある「自由の女神像」（全高93m、手を掲げた姿勢の像高46.05m）の実質的な像高（足元から頭頂までの高さ33.86m）の3倍近くと、他の像と比べても突出して大きいことが分かります。

真壁町

真壁の主な産業は窯業・鋳物・酒造・製粉などで、ほとんどは江戸時代末期までに土着産業として自立しています。陶土器や鋳物生産は桜川流域の砂質粘土の産出により、およそ800年前から行われていたと言われています。また、明治までは「真岡木綿」の産地として定期市が開かれ、真壁・筑波郡一帯の縞木綿の集散地として賑いました。大正時代になると今度は花崗岩の産地として発展します。そうして、江戸期から明治・大正と栄えた真壁の町には数多くの商家や土蔵が残り、それらは町の文化財として日本有数の登録数を誇っています。さすがにこれだけの規模と文化財的価値を有すると町をあげて街並み保存に取り組んでいます。真壁の郊外にある町田地区には、酒蔵や鋳物工場があり重厚な歴史的建造部の工場群も見られます。

